

テーマ：観光（実践校）

檜山管内 奥尻町立奥尻中学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとへの愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間の「ふるさと奥尻学習」の単元に観光の視点を加え、地域行事への参加を学校行事に位置付けて体験活動の充実を図るとともに、集団宿泊的行事の機会を生かし他の地域との比較等を通して、ふるさとのよさについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

奥尻の文化や観光産業等の教育資源について調べる活動を通して、奥尻町の自然や文化等についての理解を深め、奥尻町のよさの継承や課題の解決方法について考え、言語能力や情報活用能力の育成を図るとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育む。

取組の様子

(1) 課題の設定

地域の方への伝統文化に関する聞き取りや、観光客の方への観光目的に関するインタビューなどから、奥尻町の特色や歴史等について探究課題を設定しました。

(2) 情報の収集

海浜清掃、ワインセラー等の企業への訪問等により地域資源の魅力を見いだす活動や、地域の行事に参加し、観光客から観光目的を聞き取るなどして情報の収集をしました。

また、修学旅行等との関連を図り、他地域と比較する視点をもちながら情報収集を行いました。

(3) 整理・分析

生徒が各自で地域の見学実習や島内の祭り等で得た情報について、1人1台端末を活用してまとめ、修学旅行先等と奥尻町の特徴等について情報の整理・分析、交流及び協議を行いました。

(4) まとめ・表現

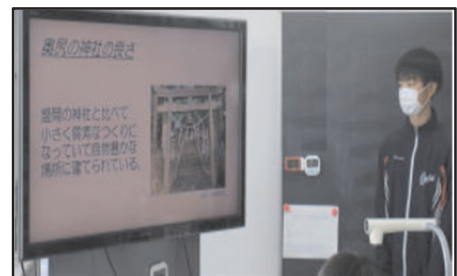
奥尻の伝統文化の紹介や、一人一人がまとめた情報の掲示などを通して、奥尻のよさや特徴について理解を深めるとともに、奥尻の今後の課題等に気付くことができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・生徒一人一人が設定した課題について、整理・分析した結果をスライド資料にまとめ、学年内で交流・協議を行い、発表内容の改善を図りました。



【島内の祭りで奥尻の伝統文化を伝える様子】



【1人1台端末で交流・協議する様子】

実践の振り返り

- ・体験活動の充実を図ったことにより、「観光客が減ったら、奥尻が無くなってしまいうので、ゴミ拾いをして、景観をよくしていこうと思った。」「島民や観光客の皆さんに盛大な拍手をいただき嬉しい気持ちになった。」という考えをもつ生徒が増えるなど、観光とふるさとの結びつきについて理解を深める中で、ふるさとに愛着や誇りをもつ気持ちを育むことができました。
- ・まとめ・表現の場面を集団宿泊的行事と関連付け、町外の方へ発表する機会を年間指導計画に位置付けるなど、教育課程を工夫することにより、生徒が他者意識をもち、多面的・多角的に自分たちの住んでいる町や北海道を捉え直し、愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。